

一緒に開けよう！まちの未来へつづく

鹿嶋市議会だより

# とびら



No.95

(平成30年12月議会を掲載)



— CONTENTS —

- 特集** 少林寺拳法×市議会 2・3ページ
- 議会報告会を開催…………… 4 ～ 5
- 12月議会の概要…………… 6 ～ 8
- 常任委員会の活動…………… 9 ～ 10
- ここが知りたい！**一般質問**…………… 11～23
- きかせて！あなたの夢…………… 24

**特集**

## 少林寺拳法×市議会

次号の「とびら」は、  
平成31年5月1日発行予定です

いきいき茨城ゆめ国体2019

第74回国民体育大会 翔べ 羽ばたけ そして未来へ





# 本当の強さを目指します！

今回は、強くなるという武術としての体系とともに、精神修行、人づくりの行としての面も持っている、鹿島少林寺拳法スポーツ少年団を指導する小野さんにお話を伺いました。



**議** 指導者としてのきっかけは？

もともと住友金属の実業団に所属していました。昭和55年に、少林寺拳法連盟本部の方針として、地域貢献ということが決まり、今の鹿島少林寺拳法スポーツ少年団設立となりました。

**議** 少林寺拳法の特徴は？

少林寺拳法は、勝敗を決する競技性がないことです。あくまでも、2人の攻防を『演じる』だけです。勝敗はありません。演じることを「演武」といって、2人1組（組演武）または団体で組み、鍛錬した演武を披露し審査してもらいます。そういう点では、シンクロ

ナイズドスイミングに似ています。少林寺拳法という大会は、試合ではなく『発表』なのです。

競技性がない理由として2つあります。

一つは、精神や身体の自己研さんが目的であること。もう一つは、技術的に突き・蹴り・受け、という基本的な動作をはじめ、より実践性を優先している技でもあることです。

**議** 少林寺拳法の魅力や教えとは？

子どもからおじいちゃん、おばあちゃんの高齢者まで、3世代にわたり長く続けることのできるスポーツであることです。継続することにより、心身一如の修行法



である護身錬胆、精神修養、健康増進の三徳が兼ね備わり、指導者としても子どもたちからエネルギーをたくさんもらえます。

**議** 指導者として心がけていることは？

子どもに教えるということは、反面、子どもから教えられる部分もあります。厳しさも大事ですが、子どもには、どんなに小さなこ



とでも必ず見つけて褒めることが大事です。団のスローガンでも「自己確立・自己共楽」を掲げ、人づくりに主眼を置いています。組手主体という教えがあり、技術指導は、基本的に2人1組で練習します。ポイント相手を選び、相手の良いところを学び、学ばせることです。1人の万能な演武者を育成するよりも、指導者を育成せよとも言われています。世の中を変えていくのは、1人の100歩よりも100人の一歩からです。



**議** ありがとうございます  
**した** といっぱい

**議** 行政や市議会への要望は？

カシマスタジアムのサッカーの試合に日程が重なる、施設が使えません。何とかしてほしい。また少年団は、施設使用料が減免されませんが、一般の趣味等で使う方も安いほうが施設を利用しやすくなると思います。

## 会員募集

活動日：毎週火・金曜日 18:30～20:00  
対象：5歳から成人の男女まで  
場所：カシマスポーツセンター剣道場  
月会費：3,000円

申し込み  
問い合わせ

鹿島少林寺拳法スポーツ少年団  
小野さん ☎090-2479-8004

## 「少林寺拳法の由来」

少林寺拳法の元となった中国少林拳（カンフー）は、中国河南省にある嵩山少林寺で僧侶たちが修行していた武術で、インドから中国へ仏教を布教する僧侶が、チベットの山賊から身を守るためにインド拳法を取り入れ発展したもの。有名な達磨（だるま）が座禅を取り入れ、武術と坐禅を取り入れた禅宗の総本山として少林寺が名を馳せた。戦後、中国で学んだ少林寺拳法を宗道臣が独自に編成、創意工夫し日本の武術として創始した。

# 議会報告会を開催しました



## 開催日時・場所

平成 30 年 11 月 25 日 (日)  
鹿島地区…10:00 ～ 鹿嶋市役所  
大野地区…14:00 ～ 大野ふれあいセンター

議会報告会では、総務生活委員会・文教厚生委員会・都市経済委員会の3委員会の活動報告と、委員会ごとに意見交換会を行いました。

## 総務生活委員会

### 「ごみ出し等に関すること」

**問** 高齢者にとって、ごみをごみステーションに持っていくことが大変になっている。また身体障がい者の自宅への戸別回収を進めてほしい。

**答** ごみの戸別回収は、市でも予算を含め検討していますが、委員会としてもごみステーションのあり方や、回収方法についても検討していきたい。

**問** 自治会を退会しても、今までどおりにごみステーションを利用できることが問題だ。区の権限やごみステーションの管理のあり方に課題がある。

**答** 自治会での課題はそれぞれあり、画一的な解決策では対応できません。身近な地域課題を解決するためには、解決策の骨子を定め、いろいろな枝葉を広げた内容で冊子等を配布できるか、提案していきたいです。

**問** 現在、可燃ごみに生ごみを入

れているが、生ごみを別に回収している自治体もある。もっと分別を進めたほうがいい。

**答** RDFセンターの更新期を迎え、市では現在、次のごみ処理の計画を策定しています。それとあわせて、分別等回収のあり方を提案していきたいです。

**問** 高齢社会が進んでいる中、5、6年先の自治会のあり方を考えてほしい。

**答** 防災・ごみ出しなどを考慮しながら、自治会のあり方を検討していきたい。



## 文教厚生委員会

### 特定健康診査等事業について

**問** 市の特定健診を受け、早期発見・早期治療を行えば、一人一人に対する保険料の軽減につながると思う。どの地域の健診受診率が低いのかを把握し、地区ごとに啓発していく必要がある。

**答** 地域別の受診率の把握はできていないため、その点については把握に努めていかなければなりません。

**問** 自分の健康に対する関心・意識が低いことが受診率の低さにつながると感じる。リスクについて数字や病名など、具体的に情報を周知していくことが必要。

**答** 生活習慣病の予防などについて、正しい知識の普及などの出前講座を行っています。その工夫についても周知ができていません。参加につなげるための周知と、参加するメリットを伝える必要があります。市へ提言していきます。

**問** 健診を受けるには、日時を

わせなければならず、受診に行けば時間も取られることから、躊躇してしまふ。日時と場所を増やしてほしい。

**答** 待ち時間が長いことに対して、検討が必要と考えています。

#### その他の意見

- ① 国民健康保険の方は仕事が忙しいときに休んでまで受診とはならない。健診時期を考慮した設定と日数の追加をしてほしい。
- ② 健診だけでなく、健康維持のためのシルバーリハビリ体操と大野のプールの利用促進。
- ③ サロンなど人の集まる場所での健診の必要性の周知。



## 都市経済委員会

### ① 道路の管理状況と今後の整備計画 ② 観光の活性化

**問** 国道124号の樹木の手入れが不十分で見通しも悪い。茨城国体・東京2020オリンピックに向けて、茨城県土木事務所へ要望をすべきではないか。

**答** 市議会としても、樹木の管理問題など国や県に対して要望活動をしていきます。

**問** 住宅地に隣接する森林からの枝が道路を覆っている。勝手に伐採できないため、市として対策を考えてほしい。枯草火災防止条例と同様に条例化が必要。

**答** 所有者の権利もあり、強制できないなどの問題があります。対応の検討が必要と考えています。

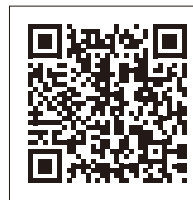
**問** 4m未満の道路は舗装されないため、地域住民で道路脇の除草などを行っていたが、高齢化により困難となっている。

**答** 道路管理を含め、行政として支援が必要と感じています。

**問** ガス管工事で道路舗装の復旧がデコボコのままだが、きれいに修復されるのか。

**答** 全体工事の終了後、本復旧する予定です。





## 議員定数 現行から2名減し 20名に

会期：平成30年12月6日～12月20日

# 12月議会の概要

### 【議決結果】

#### ◎市長提出議案

予 算	6 件	原案可決 6 件 (全員賛成 6 件)	
条 例	4 件	原案可決 4 件 (全員賛成 3 件、賛成多数 1 件)	
その他	7 件	原案可決 4 件 (全員賛成 4 件)	
		原案同意 3 件 (全員賛成 3 件)	

#### ◎議会提出議案

条 例	2 件	原案可決 1 件 (賛成多数 1 件)	
		否決 1 件	
決 議	1 件	原案可決 1 件 (賛成多数 1 件)	

今定例会には、市長から予算6件、条例4件、その他7件の議案が提出され、議会からは条例2件、決議1件の議案が提出されました。

## 討論

### 議員の定数及び報酬の削減で活発な議論

■第4号議案 鹿嶋市議会議員定数条例の一部を改正する条例

今期、議員定数に関して、平成27年8月に議会改革推進特別委員会を設置し、議会改革のテーマごとに3部会に分けて議論していくことを全会一致で決めました。

議員の定数や報酬に関しては、議員定数・報酬部会で専門的に多くの時間をかけて議論してきました。同部会においては、議員定数について適正とされる明確な基準がない中で、将来人口、市域面積、財政規模、議会運営上の支障等の面から十分な議論を尽くした結果、議員定数は20名という一定の方向性を出すことができました。

しかし、その後の委員会において直接市民の皆様のご意見を伺う公聴会を実施し、議員定数について改めて議論を重ねましたが、残念ながら適切な議員定数

の合意には至りませんでした。

本市議会議員選挙を平成31年4月に控え、この時期に議員定数を決定し、市民に周知していくことは、現市議会として非常に重要なことと考えます。改めて、今期の議員定数に関するさまざまな取組みや議論を総合的に判断し、現行の条例定数を2名削減し、議員定数を20名とすることを提案するものです。

#### 賛成 小池みよ子議員

少ない人数で、最大限の仕事をと考えている。3常任委員会の運営を最優先に考えたとき、20議席あれば公平性が保て、十分な協議が可能。身を切る覚悟の提案である。

#### 賛成 田口 茂議員

3委員会ではなく2委

員会が妥当。そのためには、民意に答えられるよう議員のレベルアップが必要。また、議員の活動、寄り添う姿を見て、10名で十分との声があったので、定数削減をし、市民に迷惑がかからない仕組みをつくる。さらに、定数削減しても報酬アップはないと確信している。この考えに沿って苦渋の選択をした。

#### 賛成 山口哲秀議員

本市議会の議員定数は22名、実数は21名。人口5万人、10万人未満の市議会の全国平均は平成29年12月現在、定数21・1人、実数20・8人で本市は若干多い状況。また、常任委員会の構成に対し、6人は最低限必要との有識者の見解がある。議員削減をした那珂市議会では7人から6人になり、かえって委員間討論ができるほど活発になった

とのこと。これらを踏まえ  
ると、1委員会当たり6名  
いれば議会運営に支障はな  
いと判断している。ただし、  
定数が少なくなった分は各  
議員が資質の向上を図るべ  
きである。

### 反対 川井宏子 議員

定数報酬部会では、定数  
削減の目的・理由が曖昧な  
状況の中、意見が平行線と  
なったため議論を打ち切り、  
賛成多数で定数削減の方向  
性を決定した。しかし、市  
民を招いた公聴会では多く  
の方が現状維持を希望して  
いた。寄せてもらった意見  
を参考にし、議論する場所  
と時間を費やす必要性があ  
ると思う。

質疑に対して明確な答弁  
もできない議案に賛成はで  
きない。削減を行えば市民  
の生活を守る議会の質が向  
上するとは考えられない。

### 反対 出頭克明 議員

今後、人口減少、歳入減、  
扶助費増等により財政の悪  
化は明らかであり、さまざ  
まな問題に対する解決能力  
が議会に求められる。議員  
削減を行えば、チェック機  
能、問題解決能力が低下し、  
住民の不利益となる。

定数削減議案が上程さ  
れた同じ時期に、特別職報  
酬審議会の準備が進められ  
ている。過去、報酬審議会  
の答申は、全て報酬アップ。  
議員報酬アップありきで、  
定数削減議案が上程されて  
いると判断せざるを得ない。

### 反対 宇田一男 議員

定数・報酬部会では、都  
合のいいデータに基づき、  
報酬増の40万円が妥当とし、  
それを正当化するため定数  
減の20名との結論を出して  
きた。また、全委員での意  
見集約の場では、明確な報  
告もなく、強引に審議が打  
ち切られた。

議員を削減しても、少数  
精鋭化は図れない。議会改  
革推進特別委員会を無視し、  
数の力で押し通す、議員削  
減には反対。

### 反対 立原弘一 議員

定数が減れば多様な意見  
は反映されにくくなる。二  
元代表制の機能を充実させ、  
行政運営をしっかりとチェッ  
クし、議会の機能を発揮し  
ていけば市民の見方もいい  
方向に変わってくる。

また、定数を減らして  
報酬を上げることが明か  
である。市の財政のためには、  
定数を減らすより、報酬を  
下げた方が市民の理解が得  
られる。定数削減によって  
削られるのは財政ではなく  
民意である。

### 反対 河津 亨 議員

議員として立候補する若  
者のために門戸を開いてお  
くことが大事である。その  
ためにも、定数を減らすの

ではなく増やしていくべき  
と考える。

また、議案提出者に何  
度も聞いたが、この議案が  
本市の予算を減らすことに  
なるとの発言は聞けなかつ  
た。定数を削減し、報酬を  
上げるのであれば、財政負  
担を減らすことへはつなが  
らない。意味のない定数削  
減、そこからつながる報酬  
アップには反対である。

■第5号議案 鹿嶋市議会  
議員の議員報酬、費用弁償  
等に関する条例の一部を改  
正する条例

現在、鹿嶋市の平均年  
収が300万円強で、20  
0万円未満の市民が多数の  
状況であり、可処分所得が  
減少し、生活困窮者が増加  
している。また、本市では、  
厳しい経済状況、財政状況  
の中、事務事業の一層の効  
率化、財政運営の健全化  
の取組みなどを推進するた  
め、「持続可能な財政運営」  
を目標に財政基盤の強化を、  
加えて「職員の人材育成と

定員、給与の適正化」を目  
標に給与の適正化等を図り、  
行財政改革を行っているこ  
ろである。

このような状況の中、議  
会としても経費削減が必  
要であり、議員みずからも  
実態に鑑みる対応が求めら  
れることから、身を切る覚  
悟として議員報酬を削減す  
るものである。

### 賛成 出頭克明 議員

議員年金が廃止になり、  
市の負担が議員1人当たり  
月額5万4400円減った  
ので、その分報酬を増やし  
てもいいのではないかと  
いう意見もあるが、現在議員  
年金を受給している方への  
負担で歳出としては減って  
いない。

提案の報酬月額5万44  
40円の減額は、定数2名  
削減分を合わせると議会費  
の約14.5%の削減になるこ  
とは明確であり賛成である。

## 賛成 河津 亨議員

市民に対して身を切る  
こととして、報酬を下げる  
というのは適切な対応であ  
る。しかし、報酬を下げる  
と議員活動に影響を及ぼす  
そのため、透明性を確保し  
どといった政治活動に使っ  
たのかを政務活動費という  
形にすることが必要である。  
そういった今後の報酬のあ  
り方を踏まえ、賛成する。

## 賛成 立原弘一議員

景気は拡大したと言われ  
ているが、格差も拡大して  
いる。みずからの身を切っ  
て、市民の苦勞を共有する  
べきである。

■議案第85号 鹿嶋市特別  
職の職員の給与並びに旅費  
及び費用弁償に関する条例  
の一部を改正する条例

一般職の職員に準じて、  
市長等の期末手当の引き上  
げを行うため、また、健康  
づくり推進協議会委員の構

委員の見直し等に伴い、当  
該委員の報酬額等を設定す  
るため、条例の一部を改正  
するものです。

## 賛成 内田政文議員

均衡の原則、情勢適応の  
原則があり、人事院勧告に  
基づく国家公務員の改定に  
準じ、地方公務員法の趣旨  
に沿って適切に対応するも  
のであるから賛成である。

## 反対 立原弘一議員

なぜ議員の報酬額までが  
人事院勧告に準拠しなけれ  
ばならないのか、明確な理  
由がないまま上げ下げする  
のはおかしい。

## 附帯決議を可決

■第6号議案 議案第94号  
市道路線の認定についてに  
対する附帯決議

都市経済委員会による  
議案第94号の審査において  
都市再生整備事業の位置づ  
けや道路沿線の土地利用に  
合致した機能と構造等につ  
いて多くの議論がなされた。  
しかし、明確に確定してい  
る内容は、道路起点と終点  
であり、事業整備に当たり  
今後十分に検討すべき課題  
があるとの結論に至った。

- よって、市道5693号  
線の事業整備に当たっては、  
以下の3点について特に配  
慮すべきとするものである。
1. 鹿嶋市の財政状況を鑑  
み、事業整備費用の縮  
減に努めること。
  2. 市道沿線の土地利用目  
的を定め、目的に合致  
した有効な機能及び構  
造となるよう詳細な検  
討を行うこと。
  3. 当該箇所周辺の混雑及  
び交通安全に配慮する  
こと。

## 議員賛否一覧表

賛成=○、反対=×、棄権=△、欠席=-

※池田芳範議長は、採決に加わりません。

賛否が分かれた議案 と 議員(会派)の賛否結果	公明かしま		日本共産党 鹿嶋市議団		幹 会		是々非々の 会		未来かしま							副議長	無所属				
	山口 哲秀	樋口 富士男	池田 法子	立原 弘一	川井 宏子	宇田 一男	菅谷 毅	河津 亨	田口 茂	篠塚 洋三	飯塚 俊雄	内田 政文	坂本 仙一	小池 みよ子	栗林 京子	小松 崎敏紀	笹沼 康弘	西塚 保男	根崎 彰	出頭 克明	
議案第85号 鹿嶋市特別職の職員の給与並びに旅費及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例	○	○	○	×	×	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
第4号議案 鹿嶋市議会議員定数条例の一部を改正する条例	○	○	○	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	
第5号議案 鹿嶋市議会議員の議員報酬、費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例	×	×	×	○	○	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	
第6号議案 議案第94号市道路線の認定についてに対する附帯決議	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	

# 予 算 決 算 常 任 委 員 会

## 宮中地区賑<sup>にぎ</sup>わい創出事業の推進に当たっては十分な意見交換を

予算決算常任委員会では、議案第78号、第79号、第80号、第81号、第82号、第83号の6件の補正予算を審査しました。

### 主な質疑

■議案第78号 平成30年度鹿嶋市一般会計補正予算（第6号）

### 問

中学校普通教室に整備するエアコンに暖房機能はあるのか。また今後の電気代の試算をしているか。

### 答

暖房は使用できる。幼小中のエアコン整備に伴い、電気代の合計は3870万円から4740万円と870万円増を見込んでいる。

### 問

子宝手当の補正について、第3子の出生率が上がっているのはいいことだが、他自治体と比較してどうか。

### 答

鹿嶋市の児童手当受給者の割合で見ると、第3子は平成29年度12・03%、平成30年度12・09%と微増している。全国的にも第3子以降は増えているが、本市ほどではない。

### 意見

宮中地区賑わい創出事業検討協議会が議会に設置された。宮中地区賑わい創出事業に当たっては、議会と足並みをそろえ、予算執行や新しい計画をするにしても十分な意見交換を行うべき。

採決の結果、議案第78号から議案第83号については、全会一致をもって、原案のとおり可決すべきであると決定しました。

# 総 務 生 活 委 員 会

## 一般職及び特別職の給与改定について審議

総務生活委員会では、議案第84号、第85号の2件の議案を審査しました。

### 主な質疑

■議案第85号 鹿嶋市特別職の職員の給与並びに旅費及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例

### 問

なぜ特別職の給与等が人事院勧告に準拠しなければならぬのか。

### 答

特別職の給与改定は、一般職に準じてきた経緯がある。給与改定の基準がないので、国及び一般職に準じて改定するのが適当であると考えている。

### 問

予防接種健康被害調査委員会委員及び社会福祉法人設立認可等審査委員会委員は、改正前はなかったが、予防接種健康被害調査委員会委員は要綱上既に設置されており、事案があった場合に発生する。社会福祉法人設立認可等審査委員会委員は、今後新たに設置される委員会である。

### 【反対討論】

・人事院勧告は職員のためにあるのであって、特別職、特に議員について人事院勧告で自動的に上がることは容認できない。

・議員の報酬は議会で決めることで、人事院が変わるというのはいかがなものかと思う。

採決の結果、議案第84号は全会一致で、議案第85号は賛成多数で原案のとおり可決すべきであると決定しました。

## 委員会の活動

\*委員会とは、議案をさらに詳細に審査する機関で、鹿嶋市議会には4つの常任委員会があります。委員会での採決の結果は、本会議で報告され、報告後に行われる採決で議会の意思（可決や否決）が決定します。

文 教 厚 生 委 員 会

鹿嶋市運動施設条例の一部を改正する条例ほか5議案を審査

文教厚生委員会では、議案第86号、第87号、第91号、第92号、第93号の5件の議案を審査しました。

主な質疑

■議案第86号 鹿嶋市医療福祉費支給に関する条例の一部を改正する条例

**問** 市民に対する周知はどのように行うのか。

**答** 対象者に通知するほか、市の広報紙やホームページで周知する。

■議案第87号 鹿嶋市運動施設条例の一部を改正する条例

**問** 学校で運動施設を使用する際の使用料金はどのようになるのか。

**答** 学校の授業であれば使用料金はかからない。

**問** 大野ふれあいセンターの駐車スペース不足が懸念されるが、その対応は。

**答** 平成31年に大野中学校のプールを解体し、跡地を駐車場として整備する。

**問** 高松緑地温水プールの現在の使用料金はいくらか。

**答** 一般410円、小学生・中学生・高校生及び60歳以上が200円で、いきいきゆめプールと同額になっている。

**問** これまではかしますポーツクラブの会員であれば安価で利用できた。今後はどうなるのか。

**答** 指定管理を受託した事業者が料金設定をすることになる。

採決の結果、議案第86号から議案第93号は、全会一致をもって原案のとおり可決すべきであると決定しました。

都 市 経 済 委 員 会

市道5693号線を認定 附帯決議案の提出を委員会で決定

都市経済委員会では、市道路線の認定についての議案を審査しました。

主な質疑

■議案第94号 市道路線の認定について

市道5693号線を市道として認定しようとするもの。

**問** 中心市街地活性化計画が定まっている中で、今この市道を認定していく目的・理由は何か。用地取得は寄附ではないのか。また整備費はどれくらいかかるのか。

**答** 宮中賑わい創出事業の一環として認定する。

幅員4m以上の用地の取得は基本的には買収になるが、極力寄附をお願いしていく。整備費は全体で約8500万円を見込んでいます。

採決の結果、議案第94号は原案のとおり可決すべきである

ると決定しました。

また、本議案に対しては、整備費用の縮減に努めること、土地利用目的に合致した機能・構造を検討すること、周辺の交通安全に配慮することとする附帯決議案を委員会から本会議に提出することに決定しました。

※附帯決議案は本会議での第6号議案です。

※市道5693号線

起点：宮中一丁目2283番2地先  
 終点：宮中一丁目2294番5地先  
 延長：170m  
 幅員：6.00m～9.00m



このQRコードまたは各議員の顔写真下のQRコードから一般質問の映像がご覧いただけます。

一般質問は、私たちの生活にかかわりの深い事柄について質問するものです。掲載した内容の詳細は、鹿嶋市議会のホームページにある「インターネット中継」または「録音中継」をご利用ください。



こまつぎ としのり 小松崎 敏紀 議員  
〔発言時間＝60分〕

## Q 平成31年度予算の編成方針は

**小松崎**

平成31年度は、いきいき茨城ゆめ国体2019が翌年には東京2020オリンピックが開催される。一方で多くの公共施設が更新時期を迎え始め、市の人口動態では生産年齢人口は既に減少し、老年人口は徐々に増加するなど歳入は減少するが、行政サービスは一定水準を維持していかなければならない状況。どのような予算編成を考えているのか。

## A 限りある財源を効率的・効果的に配分する

**市長**

歳入の大幅増が見込めない中、扶助費等の義務的経費が増加傾向にあるが、限りあ

る財源を効率的・効果的に配分することで、教育や福祉といった基本的な行政サービスを維持しつつ、イベント成功に向けた取組みやまちの活力向上のための取組みも併せて実施していきたい。

## Q 稼ぐ地域を実現するために立ち上げた法人への支援策は

**小松崎**

製鉄業を主とした製造業が市の稼ぎ頭と言えるが、市ではスポーツ合宿を中心としたスポーツツーリズムを掲げ、鹿行地域外からの誘客を図る一般社団法人アントラーズホームタウンDMO(以下「DMO」という)や鹿島神宮周辺地区の活性化を目指すまちづくり鹿嶋株式会社(以下「まちづくり会社」という)を設立し、観光産業の育成に力を入れようとしている。各法人とも利益を追求する民間法人でありながら、地域振興も目指す公的法人の側面も持つ。そこで、両方の目標を達成しながら持続可能な法人として展開するために、市としてどのような方向性を持ち、今後どのような支援をしていくのか伺う。

## A 当面は国の制度を活用した市の補助金により、各法人の経営の安定化を図っていく

**経済振興部長**

1月に立ち上げたDMOは、好スタートを切るこゝとができたが、経営基盤が確立していないことから、当面は、国の制度である地方創生推進交付金を活用した上で、鹿行5市が補助金を支出して経営の安定化を図っていく。また、定期的に鹿行5市及び民間事業者による担当者会議を開催し、経営や事業の進捗状況を共有するほか、市として広域観光担当副参事を配置し、DMOとは常時連絡を取り合い、細やかな支援を行っている。

**政策企画部長**

まちづくり会社については、地方創生推進交付金を活用した事業費の補助を行っている。門前かみの市などの定期イベントや空き店舗マッチング事業等を足がかりに経営基盤をつくり上げ、まちづくりのリーダーとして地域の方々の先導役を担っていただきたいと考えている。

【こんな質問もありました】

◎教職員の資質向上と親学の推進について

# ここが知りたい！ 一般質問



こいけ  
**小池 みよ子** 議員  
〔発言時間＝60分〕



**Q** デマンドタクシーの利用状況と近隣への延伸などの考えは

**小池** 7月4日に始まったデマンドタクシーの利用状況と今後の課題は。また、近隣自治体(医療機関など)への延伸について市の考えは。

**A** 多数の課題があり慎重に検討する必要があると考えている

**政策企画部長** 7月の運行開始から約5カ月が経過し、これまでに延べ2286人の方に利用いただいている。なお、デマンドの運行範囲については、これまでの地域公共交通活性化協議会における議論や地域公共交通再編実施計

画に基づき、市内と定めた経過がある。市外にも延長してほしい旨の要望は承知しているが、長距離運行に伴う効率性の低下に加え、市外の目的施設の基準等についても多数の課題があり、慎重に検討する必要があると考えている。

**Q** デマンドタクシーが始まり、コミュニティバスの利用者の変化はあったのか

**小池** デマンドタクシーの開始によるコミュニティバスの利用者の増減について尋ねる。



**A** 利用者数の減少については、路線等の変更の影響が大きい

**政策企画部長** 4月から9月までの利用者対前年比で、中央線が2404人の減、湖岸海岸線が1705人の減となっている。おおよそ2割方減っているが、利用者数の減少については路線や時刻表を変更した場合、一時的にその利

用者が減少するという過去の傾向からも、現時点では、デマンドタクシーの運行開始による影響ではなく、路線及び時刻表を変更したことによる影響と分析している。

**Q** ごみ捨て困難家庭へ市の職員が個別回収をしてはどうか

**小池** ごみ捨て困難家庭への対応は多くの自治体が悩ませている。先進自治体で始まっている、市の職員が安否確認と見守りを兼ねて、ごみを回収する取組みを提案する。ゼロ予算の事業の一つとして取組んでみてはどうか、市の考えを伺う。

**A** 日常生活の包括的、かつ持続可能な支援について引き続き検討していく

**市民生活部長** 市職員が直接ごみを回収する制度は、職員本来の業務への支障や継続性の課題などから、現時点では考えていない。ごみ出しのほか、外出・掃除など日常生活も支援について福祉部門とも連携し検討していく。

# ここが知りたい！ 一般質問



かわい ひろこ  
川井 宏子 議員

(発言時間= 90 分)

**Q** インフルエンザ予防接種助成の制度は改善されたのか

**川井**

インフルエンザの予防接種の制度の改善について、昨年と同じ質問をしたが、市の回答は検討するという内容だった。今年はそのような検討をされたのか伺う。



**A** 予防接種を受けやすい体制を整えていけるように努めていく

**健康福祉部長**

大野出張所において、試行的に予診票等の配布を開始している。また、比較的多くの方が利用される近隣市の医療機

**Q** 18歳までの助成と予防接種の回数は拡大できないのか

**川井**

インフルエンザの予防接種の受診回数を増やすことで、インフルエンザの流行を抑えることができるのであれば回数を増やすことが必要であり、県内でも2回の助成を行っているところがある。18歳までの助成の拡大と高齢者を含め回数の拡大はできないのか。

**A** 助成の優先順位等を見きわめながら検討していく

**健康福祉部長**

任意の予防接種については、小児のインフルエンザのほか、おたふく風邪やロタウイルス感染症などほかの予防接種への助成に関する要望もあり、市としては、感染症における社会情

**Q** 鹿嶋市で無料低額診療を実現することはできないのか

**川井**

現在、神栖市の2カ所の病院で無料低額診療を実施しているが、鹿嶋市で実施している病院はなく、低所得世帯の方が医療にかかりにくくなっている。神栖市まで行くのが困難な方、受診を控える方、受診したくても受診できない方がいる中で、鹿嶋市が補助することで無料低額診療を実現することはできないのか。

**A** 独自の補助については大変難しい状況と考える

**健康福祉部長**

県内で補助を実施している自治体はないのが現状で、市においても、独自の補助は大変難しい状況と考える。今後とも医療が必要な方が経済的理由でその受診が阻まれることがないよう、支援に努めていく。

# ここが知りたい！ 一般質問



しゅつとう かつあき  
出頭 克明 議員

[発言時間 = 75分]



**Q** 平成30年度9月補正予算に計上された特別職報酬等審議会の開催状況について伺う

**出頭** 市民に分かりやすく一つ一つ質問する。まず、特別職報酬等審議会とは何でしょうか。

**市長** 本審議会は、市長の諮問に応じ議員報酬及び市長、副市長、教育長の給料の額の改定に関して調査審議し、その結果を市長に答申する市の附属機関である。

**出頭** 審議会委員は何人を予定していたのか。

**総務部長** 10人以内で組織する。

**出頭** 審議会委員の委嘱権者は誰なのか。また、審議会委員総数のうち、公募は何人で、その他の委員は何人か。

**総務部長** 市長が委員を委嘱することになっていく。公募の委員の募集は2名程度で行っており、その他8人は公共的団体の代表者等から選任する予定である。

**出頭** 今回の審議会は何年ぶりに開催される予定でいたのか。

**総務部長** 最後に本審議会を開催したのは、平成12年度から13年度であり、約17年間開催した経過はない。

**出頭** 過去の報酬等審議会の答申により、その結果は報酬アップにつながったのか、現状維持だったのか、報酬ダウンだったのか教えてほしい。

**総務部長** 過去の報酬等審議会の経過からすると、全て増額となっている。

**出頭** 補正予算の執行状況とも言える審議会の開催状況だが、なぜ開催に至っていないのか。

**総務部長** 市議会における議会改革推進特別委員会での議論や公聴会、議会改革に係るその後の動きを見きわめる必要があるため、本審議会設置には至っていない状況である。今後、市議会の議会改革の議論や動向を踏まえ本審議会の開催時期について、適切に判断したい。

# ここが知りたい！ 一般質問



ひぐち ふじお  
樋口 富士男 議員

(発言時間= 60分)

**Q** 子ども食堂に対する市の考え方は

**樋口**

子どもの貧困層が増加している中、社会の表に現れにくい貧困の子どもたちを救えるのではと思われる子ども食堂に対する市の考え方を伺う。

**A** 地域で見守るコミュニティの体制づくりが期待できる

**健康福祉部長**

貧困状態にある子どもたちへの食事の提供のほか、子どもの居場所づくりといった役割など、子どもたちを地域で見守っていくコミュニティの体制づくりが期待できると考えている。

**Q** 子ども食堂の今後の課題に行政としてどう関わっていくのか

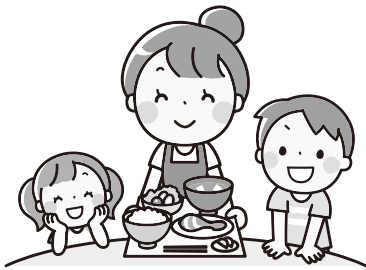
**樋口**

地域福祉の担い手として期待できる子ども食堂を継続させるには、場所、資金、ボランティアなどの確保が今後の課題となるが、行政としての関わり方を伺う。

**A** 福祉関係者などと連携を密にして広く支援していく

**健康福祉部長**

国・県からの情報収集に努めるとともに、福祉関係者や教育委員会との連携を密にして、日ごろから子ども食堂の運営者と顔の見える関係を築きながら、その活動を広く支援していきたいと考えている。



**Q** 災害時の避難路の対策は

**樋口**

災害時に避難所への移動の際に、通行が困難になる場所が多くあるのではないかと考える。現在、市として避難路沿いにあるブロック塀倒壊危険箇所等のチェックや、マップづくりは行われているのか。

**A** 地域の協力をいただいて危険箇所のデータ化などを検討していく

**市民生活部長**

ブロック塀耐震化義務に関する制度改正も見込まれることから、今後の点検作業について関係課とも連携の上整理したいと考えている。また、地域の自主防災組織の皆様の協力をいただきながら、危険箇所の点検に向けた仕組みづくりや、地図情報システム等も活用した危険箇所のデータ化も実施に向けて検討していきたい。

【こんな質問もありました】

【ひきこもり状態に対する支援について】

【介護保険について】

# ここが知りたい！ 一般質問



くりばやし きょうこ  
**栗林 京子** 議員  
〔発言時間＝60分〕



**Q** 北浦水辺を活用した観光振興策について

**栗林** 北浦で水上スポーツを楽しむ方が増えている中、マリナー整備の検討など北浦水辺の観光振興を市はどのように捉えているのか。

**A** 北浦は重要な地域資源と認識している

**経済振興部長** 北浦は湖面の景色もよく、北浦大橋は湖水にかかる橋として全国2位の長さを誇っている。北浦は重要な地域資源であり、マリナー整備については、民間事業者からの相談があれば支援を考えたい。また、国など関係機関から北浦をインフラツーリズムの新たな観光資源とする提案を受

け、現在協議を行っているところである

**Q** 広域観光事業の拡充について

**栗林** 東国三社参りの観光客が増えている中、鹿嶋・神栖間の交通手段が乏しいが、一般社団法人アントラーズホームタウンDMO(以下「DMO」という)を活用した打開策はないか。また、水郷三都(鹿嶋市・潮来市・香取市)に加え、神栖市、行方市を巻き込んで、水陸両用のバスによる周遊観光を実施してはどうか。ぜひDMOで企画してもらいたい。

**A** 広域交通の問題をDMOの枠組みの中で検討していく

**経済振興部長** 水陸両用バスによる周遊観光は、バスの動力が弱いいため、外浪逆浦の波を超えることができず神栖方面への走行は難しい。東国三社参りの交通問題については、DMOを活用したツアー造成等により対応できないか、担当者会議の中で検討していく。

**Q** 市の名産となるお土産品の開発について伺う

**栗林** 地元の農産物や海産物を加工したお土産品開発を考えてはどうか。1社が儲かるのではなく、農協や漁協が開発し、生産者に還元されるものが望ましい。市の名産となり得るお土産品開発をどのように考えているのか。

**A** ピーマンの6次産業化やホッキガイの商品開発を進めている

**経済振興部長** 鹿嶋・神栖地域農業振興協会でピーマンの6次産業化に取り組んでいる。平成31年2月にはピーマンドレッシングが製品化され、学校給食で提供するほか、地域の旅館業組合の協力を得て利用拡大を図りたい。また、「鹿島灘産ももいろホッキ貝」を使用した商品開発を飲食店組合に委託しており、市内飲食店での提供を目指している。

【こんな質問もありました】  
◎芸術祭・文化祭の目的について  
◎文化芸術支援について

# ここが知りたい！ 一般質問

**Q** 国の風疹対策を受けて市はどのような対策をしていくのか

**池田**

厚生労働省は2019年度から風疹の免疫の有無を調べる抗体検査について、30代から50代の男性が無料で受けられるように公費で補助をする方針を決めたが、市はどのように対応していくのか伺う。

**A** 企業などさまざまな機関と連携して啓発普及に努める

**健康福祉部長**

鹿嶋市健康づくり推進協議会に参画いただく市内企業の健康管理部門と連携し、職場における風疹予防対策の重要性や市で行っている風疹予防接種助成事業等について啓発普及を行う



いけだ のりこ  
池田 法子 議員

(発言時間= 60分)



ていただけのように働きかけを始めた。抗体検査については、県の動向等を注視しながら風疹の感染拡大防止のために速やかに検討する。

**Q** 窓口での風疹に関するチラシ配布や周知について

**池田**

妊娠を望む女性や夫婦、またその家族が自ら防衛策をとるというリスク回避に努めてもらうことは非常に重要だと思っている。以前にも提案したが、婚姻届の際に窓口で風疹に関するチラシを配布するなど周知の工夫をすべきではないのか。

**A** 感染が多く見られる年齢層を中心に効果的な情報提供に努める

**健康福祉部長**

婚姻届出の受理時のチラシの配布については、感染予防の有効な手法なので、速やかに実施していく。さらには保育園、幼稚園等の保護者への啓発、子育てねっとでの情報発信など、今後も感染が多く見られる年齢層

を中心に、効果的な情報提供に努めていく。

**Q** 日本脳炎の追加接種の特例措置対策と接種状況は

**池田**

日本脳炎は、平成17年に積極的な勧奨を差し控えることになり、その後、新しいワクチンが承認され、平成22年4月から接種の勧奨が再開されたが、日本脳炎の特例措置の対策と接種状況について伺う。

**A** 接種率は低い状況にあり、今後も継続して接種率向上を目指していく

**健康福祉部長**

本市においても広報等を確認したところ、特に20歳前後の接種率が低い状況にあり、市民の皆様への十分な周知につながっていないといったの見解に至った。この事業は20歳を超えた未接種者も含め平成31年度も継続し、接種率の向上を目指していく。

# ここが知りたい！ 一般質問



すがや 菅谷 つよし 議員

[発言時間 = 60分]



**Q** 原発事故を二度と起こさないためにも廃炉を

**菅谷**

東海第二原子力発電所の再稼働と運転延長に反対する鹿嶋市議会の意見書を重く受けとめ、市長としても再稼働すべきではないと明確に態度を表明すべき。また、原発事故の避難計画策定状況について伺う。

**A** 稼働の是非は県及び地元6自治体の判断であると考え

**市長**

鹿嶋市議会にて採択された東海第二原発の運転期間延長を行わないことを求める意見書について、内容とともに二元代表制を担う市議会にて採択された内容は十分理解しているが、再稼働

や運転期間延長に必要な国の一連の審査を終えた後、再稼働の是非の鍵を握るのは、あくまでも県及び地元6自治体の判断であると考えられる。引き続き関連自治体の協議結果を注視していくこととし、個別の意見等や態度決定については、差し控えさせていただく。

**市民生活部長**

広域避難計画策定状況については、現在、避難元の自治体であるひたちなか市、銚田市の両市で早期策定に向けた準備を進めている状況であるが、計画策定に向けた地元住民への説明会の対応や本市との個別協議を進めている状況であり、現時点では、今年度中の避難元自治体における計画策定は困難であると認識している。避難元自治体の避難計画の策定が先決となることから、引き続き関係市とも協議を重ね、今後の体制整備に取り組んでいく。

**Q** 中心市街地活性化事業計画の大幅な見直しを

**菅谷**

歴史資料館と交流館の複合施設について、商業・観光・歴史だけで賑わい創出は難

しい。市民が利用する公共施設を集中配置する大幅な見直しをすべきだ。

**A** 複数事業の相乗効果により賑わいを創出していく

**市長**

さまざまな機会を通じ複合施設整備に関するご意見を伺ってきたが、今後、議会からのご意見などを踏まえ、今年度中には施設整備に関する最終的な判断をしていきたい。施設を整備する場合には、既存の公共施設の機能の移転・集約等も含め、施設内容の詳細な検討をしていく。中心市街地活性化は、複数の事業を関連づけ、その相乗効果により賑わいの場を創出していきこうという取組みであることをご理解いただきたい。



# ここが知りたい！ 一般質問

**Q** オリンピック開催に向けた準備について伺う

**河津**

オリンピック開催まで600日を切った。鹿嶋市オリンピック・パラリンピック推進協議会でどのような準備が進んでいるのか、どのような市民の意見があったのか、また何が活動の障害となっているのかを伺う。

**A** 同協議会に3つの専門部会を設置し準備に当たっている

**政策企画部長**

同協議会に3専門部会を設置し、準備を進めている。機運醸成・おもてなし部会では、ビジョン及び事業計画を提示するとともに、委員からは日本文化を生かしたイベント展開や多言語対



かわつ とおる  
河津 亨 議員

(発言時間=60分)



**Q**

ワールドカップ開催の実績がある鹿嶋市がリーダーシップをとり、組織設立を呼びかけてはどうか

**河津**

地方で競技が開催される自治体は鹿嶋市の他にも

応指さし表の活用等多くの意見をいただいた。ボランティア部会では、各団体と意見交換を行い、市独自の考え方を整理し募集につなげる予定である。運営調整部会は、交通輸送やセキュリティ問題等の大会運営方針が示されないの、開催できていない。障害となっている点は準備期間が短いことや、オリンピック商標権の規制が厳しく、PRが制限されること等である。



いくつかあるが、開催自治体が一つになって準備等にかかる費用等の予算要望や、情報共有を図る必要がある。ワールドカップ開催の実績がある鹿嶋市がリーダーシップをとり、組織設立を呼びかけてはどうか。また、プレスセンターとなるスポーツセンターの改修費用を、オール鹿嶋で国県に要望してもらいたい。見解を伺う。

**A** 現行の組織で対応可能。新たな組織設立の考えはない

**市長**

地方開催都市間の情報共有は非常に重要であるが、現行の組織を活用することで十分に対応が可能であり、新たな協議会等の設立は考えていない。また、オリンピック開催に向けてハード整備などに相当の負担が必要となることから、これまで茨城県等に対し要望活動を行ってきたものの、非常に厳しい状況であると認識している。今後も継続して要望活動を行っていく。

# ここが知りたい！ 一般質問



ささめま やすひろ  
笹沼 康弘 議員

[発言時間 = 30分]



## Q 消防団の重要性と今後の行政支援のあり方は

**笹沼**

地域防災の中核的存在として消防団がある。自分たちの住む地域の安全安心を守るために、大きな役割を果たしている。少子高齢化や就業構造の変化などで、団員数の減少も大きな課題である。そこで市が安全安心のまちづくりを進めていく中で、消防団の重要性と今後の行政支援のあり方について伺う。

## A 消防団員の確保、処遇改善など今後も積極的に支援していく

**市長**

大規模な災害が起こった場合には、消防団を中核とした地域防災力は、重要な役割

## Q 消火栓・防火水槽マップアプリ導入の考えは

**笹沼**

を担うことは確かである。平成29年度からは女性消防団員を採用し、消防活動の積極的な広報や消防団組織の充実に向けた消防団員の募集啓発の強化などの取組みについても進めている。今後も消防団員の皆様には安全で安心できる災害に強いまちづくりを担う中核として、また、地域のリーダーとなり、消防・防災活動を盛り上げて活躍されることを期待している。なお、地区行事への参加や地域における声かけなどについても積極的に取り組んでいただくなど、市政運営に欠かせない貴重な存在となっている。減少傾向にある消防団員の確保に向けた取組みの強化、処遇改善など、今後も積極的な支援に努めていく。

現在、消防団員は、消火栓や防火水槽の場所がわかる地図を消防車に載せて活用しているが、携帯でも確認できるアプリを導入すればさらに便利だと思ふ。他県の市町村では導入しているところもあるようだが、市と

して今後、消火栓・防火水槽マップアプリの導入について考えを伺う。

## A 既存の情報を活用し、消防活動に向けた情報共有に努めていく

**市民生活部長**

市における消防水利情報の管理については、紙ベースでの台帳のほかに茨城県域で共同整備している統合型GISでも消火栓や防火水槽の位置情報を管理している。この電子情報は、パソコンだけでなく、スマートフォン等でも閲覧が可能となるので、アプリ同様の利活用が図れると思われる。これまでは、市における内部での管理にとどまっているため、この情報を消防団側にも効果的に活用していただくように周知を図り、火災時の迅速かつ適正な消防活動に向けた情報共有に努めていく。



# ここが知りたい！ 一般質問



ちはら ひろいち  
**立原 弘一** 議員  
〔発言時間＝90分〕

**Q** 地域医療問題について伺う

**立原**

救急受け入れについて、時間がかかるなどの話をよく聞くが、課題をどう認識しているのか伺う。

**A** 医師不足の背景に二次救急医療体制が不十分

**健康福祉部長**

医師不足を背景に、特定の医療機関への負担が大ききことや、救急搬送に時間を要する等の課題がある。近年は鹿嶋市民の約5割が市内の二次救急告示病院に搬送されており、断り率も年々減っている状況である。

**Q** 医師確保対策支援の現在の補助額は

**立原**

医師確保対策支援として4、5年前から助成制度を行っていると思うが、現在の予算額を伺う。

**A** 市内に医師を派遣している大病院と二次救急告示病院へ補助を行っている

**健康福祉部長**

市内で不足する診療科医師を確保する市内医療機関及び医師を派遣している大病院等を対象に、基準や上限等に基づき約1800万円の助成額を計上している。また、二次救急告示病院へは救急医療体制強化支援として、約5700万円の運営費補助を行っている。

**Q** 鹿行5市で三次救急について問題提起されているのか

**立原**

鹿行医療圏で不足しているのは、救命救急センターを持った第三次救急医療だと思いが、第三次救急医療を行うに

は、30万人が目安と言われている。考えの違いなどがあるとは思いますが、鹿行5市で協力しながら実現に向けて努力してもらいたい。5市でこの問題の話し合いなどは行われているのか。

**A** 土浦協同病院との連携で、なめがた地域医療センターが役割を担っている

**市長**

鹿行地域の第三次救急医療については、土浦協同病院との連携で、なめがた地域医療センターが役割を担っている。また、重篤な救急患者にはドクターヘリやラピッドカー<sup>\*</sup>を活用し、圏域を超えた三次救急医療機関に対応してもらっている。地域医療体制の充実には鹿行地域の最重要課題であることから、鹿行5市をはじめ医療機関等と協議を重ねて積極的に取組んでいく。

<sup>\*</sup>ラピッドカーとは：消防からの要請により、心肺停止や重症な患者さんの治療をいち早く行うため、医師・看護師及び救急医療資器材を乗せて現場に出動する緊急車両です。

# ここが知りたい！ 一般質問



やまぐち てつひで  
山口 哲秀 議員

〔発言時間＝60分〕



**Q** 合併浄化槽の個人負担の軽減について

**山口**

浄化槽の維持管理費が下水道や農業集落排水使用料よりも負担が多いことは行政課題である。浄化槽の維持管理費に対する補助制度の創設を提案する。

**A** 他自治体の補助の形態など調査研究を行っていく

**市民生活部長**

浄化槽設置については、霞ヶ浦流域の内外の違いによって設置費は異なることから、森林湖沼環境税を活用して実質的な負担に大きな差が生じないような補助体系をとっている。また、法定点検を含む維持管理費に関する補助制度についても費用負担の詳細、他自治体の補助の形態など、

調査研究を行っていきたいと考えている。

**Q** 汚水処理事業の連携強化について

**山口**

少子高齢化と人口減少や厳しい財政運営等の汚水処理環境の対策として、汚水処理施設の統廃合や汚泥の広域共同処理など各事業の連携強化について伺う。

**A** 市関係課及び県とともに広域化・共同化に係る協議に着手している

**都市整備部長**

市としては、公共下水道、農業集落排水、し尿処理施設を対象とした水処理事業の運営及び施設の統廃合を中心とした共同化、並びに鹿島特定公共下水道などの他団体への編入を踏まえた広域化を図るべく、市関係課及び県とともに広域化・共同化に係る協議に着手している。今後の計画としては、平成31年度から経済性及び効率性等を前提とした広域化・共同化計画の策定を進め、平成33年度までに計画を取りまとめ、

汚水処理事業の効率化を図っていく。

**Q** 生活排水処理行政組織の統合化についての考えは

**山口**

平成27年12月の一般質問で、本市の汚水処理事業である公共下水道、農業集落排水、合併浄化槽を所管とするそれぞれの部署の統合化、組織一元化を提案したが、今後検討するという回答であった。単独で汚水処理事業は困難であり、各事業との連携強化をすることは明確である。この喫緊の課題と言える連携強化の取組みの核となる行政組織の統合化について、市の見解を伺う。

**A** 諸課題を整理し一元化に向けて努めていく

**市長**

生活排水処理対策は、公共下水道、農業集落排水、合併浄化槽、個別の計画を有機的に組み合わせる上で、効率的に推進するため、課題の整理をしながら組織の一元化の早期実現に努めていく。

# ここが知りたい！ 一般質問



たくち しげる  
**田口 茂** 議員  
(発言時間= 90分)

**Q** 大野潮騒はまなす公園のリニューアル計画について伺う

**田口** 市長は2期目の公約で、地域活力の一つとして大野潮騒はまなす公園のリニューアルを掲げた。私は国県補助が活用できる都市公園法の認可を受け整備すべきと思うが、市長の考えるリニューアルとはどのような内容か伺う。

**A** 都市公園決定を目指し眺望や自然環境を生かした環境整備に取り組む

**市長** 開設から30年経過した同公園は、これまで遊具の増設や展望塔の改修等を行って管理してきたが、一部施設の老朽化

が見られることから、公園全体のあり方や維持管理計画の見直しが必要と判断した。観光施設としてのポテンシャルも高いことから、眺望や自然環境を生かすとともに、子どもが安全安心に遊べる環境整備に取り組む。

**都市整備部長** 同公園は現在の一般公園から、国庫補助金が活用

できる都市公園への変更が必要不可欠と考えている。平成31年4月1日からの都市公園決定を目指し、現在県と協議を進めており、決定後に公園長寿命化計画を策定した上でリニューアル事業を進めていく。

**Q** はまなす公民館の老朽化対策と機能充実について伺う

**田口** 公園の中にある公民館は、市内でははまなす公民館だけであり、外壁、冷房機器等の老朽化が進んでいる。長年の懸案であるエレベーター設置の必要性及び機能充実として学生の勉強サロン室、自治会の会議室はつくりたいものか伺う。

**A** 施設の大規模改修にあわせ検討する

**教育部長** 提案のあった自習室の設置は利用状況を見て必要な対応をする。子どもたちが休日や放課後に安心して集い、自主活動できるよう公民館利用を推進する。

**教育長** 自治会室設置については、地域活動を支援する施設として公民館が重要な役割を担っている観点から、施設の積極的な活用をPRし、利用状況を把握した上で増設等の必要が生じた場合には大規模改修時にあわせ検討する。

—鹿嶋っ子の夢、  
応援しています—

きかせて！  
あなたの夢



『宮殿にも秋の訪れ』鹿嶋市教育会  
児童生徒作品展に出展した作品

私の夢は、漫画家になることです。読んでくれた人たちを笑わせて、元気になってくれるようなものを描きたいです。もともと絵を描くことが好きなのですが、マンガを読むことも大好きです。何十冊も一度に読んでも飽きず、それなら自分で描いてみようと思



平井小学校6年  
牧唯心さん

い、まだ内緒ですが実際に作品を描いています。面白いストーリーを考えることが大変ですが、映画を見たり、小説を読んだりして、アイデアを練っています。自分の住んでいる鹿嶋市は大好きで、将来、進学しても帰って来たいと思っています。楽しいお店やみんなが集まるようなお店がもっと増えてくれたらうれしいです。

目をキラキラ輝かせ、  
愛くるしい笑顔の唯心さん。  
日本を代表する漫画家  
人向かって頑張れ！  
(樋口・小松崎)

12/12  
水

## 鹿島学園高校生が 市議会を傍聴しました

## 議 会 T O P I C S

鹿島学園高校グローバルコースの2年生  
10人が傍聴に訪れました。

今回の傍聴は国際知識の授業の一環として、  
自分たちが学んできた他国の国政議会・  
地方議会と比較検討や地方議会の運営や地方自治  
について学ぶことを目的に傍聴されました。



傍聴に訪れた鹿島学園  
高校の生徒たち



若い人が議会に感心をも  
てくれることはよいこと。  
またいつでも傍聴に来てく  
ださい。(議員一同)

### <広報広聴委員会>

委 員	委 員	委 員	委 員	委 員	委 員	副委員長	委員長
笹 弘	小松崎 敏紀	川 井 宏子	菅 谷 毅	栗 林 亨	河 津 亨	樋 口 富士男	小 池 みよ子

今回、鹿島少林寺拳法スポー  
ツ少年団を取材して、何よりも  
勝敗を決する競技性がないこと  
に興味を惹かれました。  
武術ではなく演舞、試合では  
なく発表会。その魅力は、子ど  
もからおじいちゃん、おばあ  
ちゃんの高齢者まで三世代にわ  
たり長く続けられるスポーツで  
あることがわかりました。  
これからも、世代を超えた交  
流とともに、心身一如で頑張っ  
てください。

### 編集後記

笹沼 康弘